



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

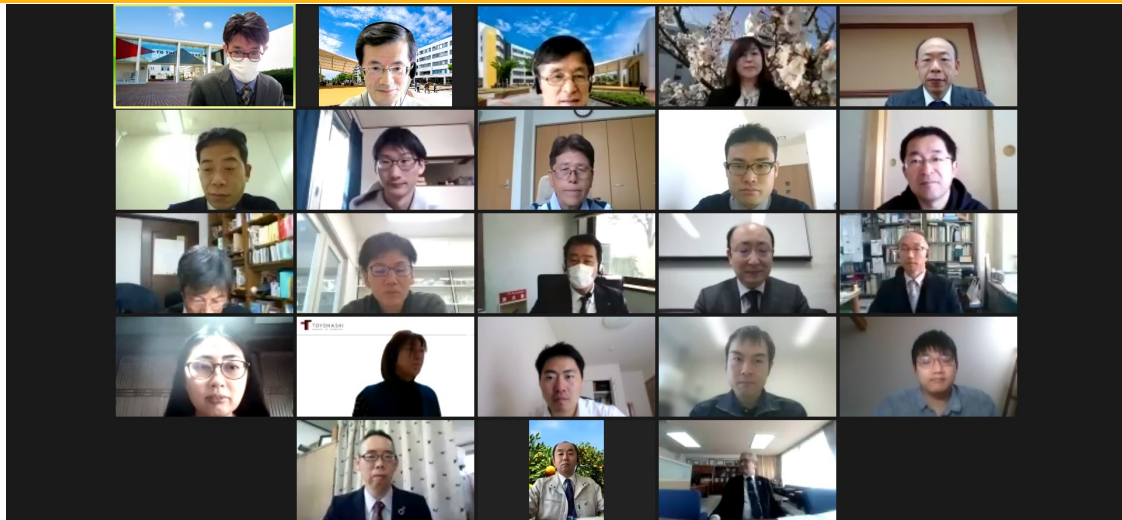
発行元：豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

住所：〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2021年4月15日

No. 79



2020年度 最先端植物工場マネージャー育成プログラム第8期生・IT食農先導士養成プログラム

(最先端土地利用型IT農業コース) 第4期生修了式集合写真

最先端植物工場マネージャー育成プログラム第8期生・IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)第4期生の修了式が行われました!

2021年3月26日(金)に2020年度最先端植物工場マネージャー育成プログラムおよびIT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)修了式が行われました。今年度は、新型コロナウイルス感染症リスクへの対応からオンラインでの修了式となり、寺嶋学長から修了生15名に修了証書授与されました。

学長式辞後、教室講義とeラーニングで優秀な成績を修めた佐藤隆史氏と鈴木達也氏に「優秀成績賞」が、課題研究で優秀な成績を修めた越川智尋氏と岡田遼太氏に「課題研究優秀賞」が授与されました。最後に、修了生を代表し、佐藤隆史氏が答辞を述べました。

最先端植物工場マネージャー育成プログラム修了生には「植物工場管理経営士」と「IT食農先導士」の2つの称号が、また、IT食農先導士養成プログラム修了生には「IT食農先導士」の称号が授与され、今期は「植物工場管理経営士」10名、「IT食農先導士」14名が新たに誕生しました。

(文責・熊崎 忠)

学長式辞

「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」と「IT食農先導士養成プ

rogram(最先端土地利用型IT農業コース)を修了された15名の皆さん、おめでとうございます。「植物工場マネージャー育成プログラム」を修了された皆さんは、「植物工場管理経営士」と「IT食農先導士」という2つの称号を、「最先端土地利用型IT農業コース」では、「IT食農先導士」の称号をもつ、いわば本学お墨付きの人材です。ぜひ、様々な機会に、「植物工場管理経営士」や「IT食農先導士」を名乗り、自信をもって活躍いただくとともに、豊橋技術科学大学を世の中に大いに知らしめていただきたいと思います。また、このプログラムは、本日ご出席の豊橋市、田原市、蒲郡市、新城市、株式会社サイエンスクリエイト様をはじめ、豊川市、地元企業の方々から様々な御支援をいただいております。これにより、このプログラムが運営できているということ、それらの皆様にも御礼を申し上げます。ありがとうございます。

この人材育成プログラムは、本学の中で「履修証明プログラム」として正式に位置づけられており、本学が実施する各種社会人向け講座の中でも、最も形と内容が整った、実績のあるプログラムです。皆さんは、昨年12月から1年4ヶ月の間、教室での講義やeラーニングの受講、各種研修や課題研究に取り組み、すべての講義科目においてレポートを提出しました。また、それぞれテーマを決めて課題研究に取り組み、発表を行いました。社会人として、様々な制約がある中で、これらを行うことは、決して容易なことではなかったでしょう。この度15名の方が修了されることをとても嬉

しく存じます。そして、この学びがこれからの皆さんの活躍に大いにプラスになっていくことを期待します。

皆さんを加え、「植物工場管理経営士」は96名、「IT食農先導士」は214名となりました。人材育成というものを考える時に、講座を受講して完成という訳ではありません。自然相手の農業には次々と新たな課題が登場し、究めることは容易ではありません。飽くなき挑戦のために、皆さんは受講中から『IT農業ネットワーク』の一員として、先端農業・バイオリサーチセンターが実施する各種人材育成事業の受講生・修了生と共に、ネットワークを形成してきました。そして、本学の『IT農業サポーターセンター』が、ネットワークを、そしてみなさんを支えています。このネットワークこそが、このプログラムの最大の強みと言えるでしょう。是非、皆さんも大いに活用してください。

本学では、「社会人学び直し事業」として、先端農業・バイオリサーチセンターだけでなく、他のセンターや研究所でも様々な社会人向けの人材育成を行っています。現役の大学生とは異なる「社会人の学び」に対して、大学はどのように応えていくのか、まだまだ改善・発展の余地があると考えます。東三河地域には「社会人キャリアアップ協議会」という組織もあり、大学だけではなく、産学官金(金融)といった連携のもとで人材育成を進めようとしています。

「社会人の学び」は、終わりが無いものではないから皆様は、まだ最初のドアを開けたところなのかもしれません。プログラム修了後も「学び」を続け、またIT農業ネットワークの仲間と連携することによって、地域の農業の発展、さらには本地域のますますの活性化に貢献されることを期待しています。

修了にあたりまして、私からあらためてお祝いの言葉を申し上げます。式辞とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



式辞を述べる寺嶋学長

修了生答辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の気配を感じられる季節となりました。本日は多くの皆様のご臨席のもと、私たち最先端植物工場マネージャー育成プログラム第8期生、およびIT食農先導士養成プログラム第4期生のために、このように盛大な修了式を開催していただき、心より御礼申し上げます。また、御多忙の中ご臨席賜りました寺嶋一彦学長からは、素晴らしい式辞をいただき、修了生一

同を代表して重ねて御礼申し上げます。

思い返せば、一昨年の12月、私たちはまだ名も知らぬ仲間と共に、これから始まる新しい学びへの大きな期待とそれと同じくらい大きな不安を抱き、この豊橋技術科学大学のキャンパスに集まりました。会社の事業で農業に関わる方、この東三河で実際に農業を営まれている方、仕事とは別に農業に関心のある方、遠方から参加される方もいらっしゃいました。参加した目的や動機は異なるかも知れませんが、皆「学び」に対して真剣かつ意欲的な最高の仲間たちでした。

開講後、すぐに始まった教室講義とeラーニングでは、農業に関する知識を体系的に学ぶことで、農業経営に関する全体像を把握することができました。農業の基本である、土壌や栄養、植物生理や病害虫防除、経営の観点では、客観的な分析に必要な統計学、「売り」のための6次産業化やマーケティング、そして、最先端農業である、施設園芸や植物工場における設備管理や環境制御など、大変でしたが農業に関する幅広い知識を習得することができました。

また、先端施設研修では、工夫を凝らした施設園芸を営む農家さん、苦労を重ね立派に農業経営をされている農家さん、先端施設栽培を行う企業さん、それとは対照的な自然農法で成功されている農家さん、様々な方から栽培の工夫

や農業経営における取り組みを教えてください、深い感銘を受けたことを覚えていきます。

課題研究では、各々が、関心を持ったテーマについて自ら課題を設定し、試行錯誤を繰り返しながら調査研究に勤しみました。私もそうでしたが、想定した結論まで導くことができた人は少なかつたように思います。けれども、今思うと、大事なのは結論より、むしろそこに至るまでの過程だったのではないかと思います。以前、教室講義の初日に三枝先生から「学問と勉強の違い」について教えを受けたことを思い出します。

この1年4ヶ月の間、仕事と両立しながらの受講は大変でしたが、無事にやり遂げることができました。これもひとえに、同期の仲間や、課題研究の指導教員である山内先生、熊崎先生、そして先端農業バイオ・リサーチセンターの皆さまのご支援があつてのこと、改めて御礼を申し上げます。これからは、一緒に学んだ仲間やIT農業ネットワークの皆様と連携し、学んだことを活かして、地域や農業の発展に貢献して参りたいと思います。

最後になりましたが、修了生を代表して、皆さまのご健康と豊橋技術科学大学の更なる発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

2021年3月26日

最先端植物工場マネージャー育成プログラム

第8期生代表 佐藤隆史